

学校・学びグループ

学校・学びグループの質問を始めます。

私たちのグループは、実際に小・中学校で体験し、重大な問題なので何とかしたい「いじめ」について、また、もったいない、どうしたら減らせるだろうかと感じている「給食の食べ残し」について、話し合いました。

このことについて、2つの質問をしたいと思います。

質問1 「いじめ問題の対策」について

1つ目の質問は、「いじめ問題の対策」についてです。

令和3年度の「いじめ認知件数」は、全国では、小学校 約50万件、中学校 約10万件あり、広島県内では、小学校 4,154件、中学校 1,388件です。

前年度と比較しても、広島県内では、小学校 360件、9.5%増加、中学校83件、5.6%減少しています。

また、この「いじめ認知件数」に含まれていない「いじめ」もあるので、広島県内でも「いじめ」が多くあると感じています。

「いじめ」は、私たちの学校でも起きている身近な問題であり、いじめられた人だけでなく、一緒にいる私たちも非常に悲しく、傷つきます。

当然、家族も含めて、みんなが傷つきます。

私たちは「いじめ」に対して、先生や身近な大人に相談することしかできませんが、気軽に相談しにくいし、相談しても、いじめた人が反省し、いじめが無くなったと、なかなか感じることはできません。

そこで、1つ目の提案です。「いじめ」が発生しないように、「いじめ」が早く分かるように、もっと「いじめ」について、授業時間を増やすことや、「いじめ」に関するアンケート調査の数を増やすことは、できないでしょうか。

「いじめ」が多くの人を傷つけ、時には命を奪う重大な問題だと感じるからです。

次に、いじめ問題の対策には、スクールカウンセラーなどの専門家によるカウンセリングも重要だと思います。スクールカウンセラーの方が学校に来られますが、会う機会はほとんどなく、気軽には相談しにくいように感じています。

そこで、2つ目の提案です。いじめの相談や問題があった場合には、先生が、必ず

スクールカウンセラーに相談することにする。また、カウンセリングをする場合には、いじめられた人、いじめた人の両方が受けることにするのは、どうでしょうか。

みんなが楽しく安心して過ごせて、いじめの無い学校にできたらいいなと思います。

答弁（教育長）

2つの御提案がありました。

まず、「いじめ」に係る授業時間の増加や、アンケート調査を増やすこと」について、お答えします。

皆さんが言われたように、いじめは、いじめられた人だけでなく、一緒にいる人や家族も傷つけるなど、許されない行為です。

また、いじめはどんな場所においても起こり得ることであり、皆さんの周りだけではなく、私たち大人の周りでも起こり得ます。

学校では、皆さんが安心して学校生活を送ることができるよう、授業や学校行事を通じて、よりよい人間関係をつくる機会を増やすよう取り組んでいますが、いじめを減らすことは簡単ではなく、いじめを許さない・起きにくい環境をつくるのが大切です。

皆さんが御提案するように、「いじめ」を減らしていくために、道徳科の授業等で、自分の考えを深めることや、アンケート調査を実施することで、いじめを早期発見することは、とても大事なことだと思います。

私たち、教育委員会は、引き続き、皆さんがいじめについて考える機会を増やすとともに、皆さんが先生や身近な大人に相談しやすくなる環境づくりに取り組んでいきます。

次に、「いじめ」の相談などがあった場合のカウンセリング」について、お答えします。

皆さんが御提案されたように、いじめが発生した時に、学校の先生とスクールカウンセラーが連携し、いじめられた児童生徒だけでなく、いじめた児童生徒に対してもカウンセリングを行い、気持ちを落ち着かせたり、自分を見つめ直したりすることはとても重要だと思います。

それぞれの学校で、いじめが起こった場合は、いじめられた児童生徒に寄り添える体制をつくり、被害を受けた児童生徒の気持ちを理解し、先生やスクールカウンセラ

一と児童生徒と一緒に解決策を考え、傷ついた心のケアを行います。

一方で、いじめをした児童生徒に対しても、発言や行動について振り返ることができるように、先生とスクールカウンセラーでサポートするとともに、いじめをした児童生徒が抱える不安や不満などのストレスを、受け止めることができるように支援しています。

私たち、教育委員会は、引き続き、先生とスクールカウンセラーをサポートし、いじめなどの悩みを身近な大人に相談しやすい環境づくりに取り組んでいきます。

いじめをみかけた時に、皆さんそれぞれが、「やめよう」と言えるような雰囲気の学級を、私たちと一緒に、みんなで作っていきましょう。

質問2 「給食の食べ残しをなくす取組」について

2つ目の質問は、「給食の食べ残しをなくす取組」についてです。

私の学校では、給食がいつも3人分ほど余っていますし、給食をいつも食べ残す人もいます。世界では、飢えや栄養不足で苦しんでいる人々が約7.7億人もいるのに、給食の食べ残しは、ゴミとして捨てられるのだろうか、もったいないなと思います。

また、給食の食べ残しを見ると、食べ物を育ててくれた人や、調理してくれた人、給食費を負担してくれている家族など、みんなに申し訳ないなという気持ちにもなります。

調べてみると、手つかず食品や食べ残しなど、本来、食べられるのに捨てられてしまう食品である「食品ロス」は、令和3年度推計では、日本全体で、年間523万トン、毎日大型10トントラック 約1,433台分を廃棄しており、年間1人当たりの食品ロス量は、42キログラム、毎日おにぎり1個分、114グラムの食べ物を捨てている計算になるそうです。

また、給食の食べ残しは、ゴミとして捨てられれば、多くのお金や時間も掛かるし、処分するための埋立地も必要となります。

そこで、1つ目の提案です。給食を残さず食べる大切さについて学ぶため、給食の食べ残しがどのくらいあって、どのように処分されているのか、工場などを社会科見学するのはどうでしょうか。

また、給食を残さない運動をもっと進めるためには、広島県内の学校全体で取り組めば良いと思います。

そこで2つ目の提案です。広島県内の学校が、給食を残さないように、みんなで頑張るため、「残食ゼロの日」を作っては、どうでしょうか。

給食をおいしく食べて、食べ物を大切に作る広島県になったらいいなと思います。

答弁（教育長）

2つ御提案がありました。

まず、「給食を残さず食べる大切さについて学ぶための社会科見学」について、お答えします。

食べ物を大事にし、食料の生産などに関わる人々へ感謝する心をもつことは、とても大切なことであり、皆さんから御提案のあった、給食の食べ残しへの関心を高めるための社会科見学などは、とても有意義なことだと思います。

今でも、各学校では、給食の時間をはじめ、家庭科や特別活動等において食べ残しをなくすための取組を行っており、引き続き、児童生徒の委員会活動で給食の食べ残しの調査をしたり、給食時間に苦手な食べ物にチャレンジするよう声掛けをしたりするなど、給食の食べ残しがなくなるよう取組を行っていきます。

次に、「広島県内の学校全体で取り組むための「残食ゼロの日」」について、お答えします。

御提案のあった「残食ゼロの日」のような取組を実施し、県内の学校全体で取り組んでいくことは、給食の食べ残しをなくしていくことに効果的だと思いますが、一方で、その日の体調によっては、いつも通り食べられないことや、「残食ゼロ」という言葉をプレッシャーに感じる児童生徒もいるため、一人一人の状況を考えながら、取組を進めていかなければなりません。

私たち教育委員会としては、給食の食べ残しをなくしていくために、例えば、児童生徒が自ら栽培した野菜を給食に取り入れるなど、それぞれの学校が行っている様々な取組を、他の学校にも展開していくことで、今後も、皆さんが食べ物を大事にする心を育てるので、皆さんも日々の生活の中や授業などを通じて、一緒に考えていきましょう。